

第5次レッドデータブック：
絶滅のおそれのある日本の野生生物
The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan

セイタカシギ

Himantopus himantopus (Linnaeus, 1758)

守屋年史（バードリサーチ）

絶滅のおそれのある野生生物の選定・評価検討会 鳥類分科会



令和8（2026）年3月



特に文献内で別途指定がない限り、この文献はクリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンスの下に提供されています。

<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja>

種毎の解説を引用する場合には以下のように記述してください。

引用表示：守屋年史，2026．セイタカシギ．環境省（編）第5次レッドデータブック：
絶滅のおそれのある日本の野生生物，pp. 819-823．

Citation: Moriya, T., 2026. *Himantopus himantopus* (Linnaeus, 1758). In: Ministry of the Environment, Japan
(ed.), *The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan*, pp. 819-823.

セイタカシギ

Himantopus himantopus (Linnaeus, 1758)

カテゴリー判定結果 情報不足 (DD) ②

基準 A: データ不足	基準 B: —	基準 C: —	基準 D: —	基準 E: —
-------------	---------	---------	---------	---------

環境条件の変化によって、容易に絶滅危惧カテゴリーに移行し得る属性（具体的には次の要素）を有しているが、生息状況をはじめとしてカテゴリーを判定するに足る情報が得られていない種。

②生息地が局限されている。

【判断理由】

国内の繁殖分布は、一時期広がるも、定着した地域は東京湾、伊勢三河湾など局地的で大きく広がってはいない。

また、確認されている繁殖環境は、ハス田、立ち入りが制限された埋立地の調整地など人工環境も多く、繁殖環境が継続的に残されない不安定な状況にある。

評価分科会： 鳥類分科会

概要

嘴は細長く、脚も長い。体型、羽衣、嘴、脚の色が特徴的。日本では全国で観察される。千葉県、東京都、愛知県、大阪府など局地的に繁殖記録があり、一部で留鳥化している。繁殖分布は、一時期広がるも、定着は東京湾、伊勢三河湾など限定的で大きく広がってはいない。湖沼、水田、ハス田、干潟、調整池などに生息する。容易に近づけない隔離された場所での巣立ち例が多く、陸上からの天敵を避けることのできる繁殖環境が必要と考えられる。

基礎情報

【形態】

全長 35～40 cm。頭部から腹部まで白色で、背、翼は黒色。個体によって頭部にも黒色があり、黒色の度合いは個体や亜種間で異なる。嘴、脚、目は赤色。嘴は細長く、脚も長い。体型、羽衣、嘴、脚の色が特徴的で、他のシギ・チドリ類と区別できる。

【生活史】

繁殖期は 5～7 月で、植被率の低い乾燥した砂泥地に浅い窪みを作り、小石や植物片などを敷き、3～4 個の卵を産む。雌雄で抱卵し、22～25 日で孵化。孵化した雛は早成性の離巢性であるため、直ぐに巣を離れる。巣外育雛期は 28～32 日で、雛はその後独立する。浅い水辺で昆虫の幼虫や甲殻類、小魚、オタマジャクシなどを捕らえて食べる。

【生息環境】

国内では、湖沼、水田、ハス田、干潟、調整池などに生息する。巣は、水際の草地の中に作り、小石、貝殻片、植物質などを内部に敷く。ハス田、調整池内の小島状の場所に好んで営巣する。

生息環境区分：	【陸域_平地部 海岸部】田地・畑地，湿地・湿原，河口域，ワンド，農業用水路，小河川，ため池・池沼，潟・湖・ダム湖，汽水域，塩沼地・塩性湿地・河口干潟，潟・汽水湖 【海域（沿岸）_潮間帯 表層】海面，干潟，砂底・礫底，泥底
国土地域区分：	(2) 里地里山・田園地域，(4) 河川・湿地地域，(5) 沿岸域

【分布域】

本種は世界に広く分布し、フランス、イベリア南部、サハラ以南のアフリカ、マダガスカル、東及び中央アジア、中国北部から中央、インド亜大陸、インドシナと台湾に分布している。

現在の生息状況

【分布域の現況】

日本では全国的に観察される旅鳥で、1975 年に初めて愛知県で繁殖が確認され（中村・中村 1995）、その後、千葉県、東京都、愛知県、三重県、大阪府、兵庫県、鹿児島県、沖縄県など局地的に繁殖記録があり、一部で留鳥化している。繁殖分布は、一時期広がるも、定着は東京湾、伊勢三河湾など局地的で大きく広がってはいない。

【生息地の現況】

国内では、湖沼、水田、ハス田、干潟、調整池などに生息する。立ち入りが制限された埋立地、池の中央部やフェンスに囲まれた調整池など容易に近づけない隔離された場所での巣立ち例が多く、陸上からの天敵を避けることのできる繁殖環境が必要と考えられる。

繁殖状況を現地調査した全国鳥類繁殖分布調査（2021）では、1990 年代と 2010 年代に調査された同じ調査コースを比較すると、2 地点から 5 地点へと増加している。

【個体数の現況】

現在、IUCN のレッドリストでは、世界的には低危険種（Least Concern）とされている。東アジアのフライウェイでは全体で約 25,000～10 万羽と推定されている。

2008 年を基準としたモニタリング調査の結果を用いた研究では、春期の推定変化率は、3285.5%（30 年前比：有意）、160.9%（20 年前比：有意）、21.31%（10 年前比）、秋期の推定変化率は、1749.0%（30 年前比：有意）、506.6%（20 年前比：有意）、103.2%（10 年前比）（Amano et al. 2010）と、個体数が継続して増加している。

直近のモニタリングサイト 1000 シギ・チドリ類調査 2004-2017 年度 とりまとめ報告（2020）では、Amano et al. 2010 と同様の分析を行い、最大個体数指標を算出した。2000 年を基準値 1.00 とし、2007 年時点で、平均 1.80（春期 0.83、秋期 2.77）、2017 年時点で、平均 2.55（春期 1.36、秋期 3.74）。継続した増加が確認されている。

存続を脅かす要因

主な繁殖地である千葉県、東京都では増加傾向にあるものの、埋立等により生息環境の悪化は常に懸念される。また、全国でシギ・チドリが利用できる干潟や水田は減少傾向にあり、本種の渡り途中や越冬地でのエネルギー補給に影響が出ていると思われる。

要因の区分：	（過去）	海岸開発，湿地開発，分布・産地局限
	（現在）	海岸開発，湿地開発，圃場整備，分布・産地局限

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	セイタカシギ	<i>Himantopus himantopus himantopus</i>	VU
第4次 2019:	セイタカシギ	<i>Himantopus himantopus himantopus</i>	VU
第4次 2018:	セイタカシギ	<i>Himantopus himantopus himantopus</i>	VU
第4次 2017:	セイタカシギ	<i>Himantopus himantopus himantopus</i>	VU
第4次 2015:	セイタカシギ	<i>Himantopus himantopus himantopus</i>	VU
第4次:	セイタカシギ	<i>Himantopus himantopus himantopus</i>	VU
第3次:	セイタカシギ	<i>Himantopus himantopus himantopus</i>	VU
第2次:	セイタカシギ	<i>Himantopus himantopus himantopus</i>	EN
第1次:	セイタカシギ	<i>Himantopus himantopus himantopus</i>	R

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和6年度末時点）

【北海道】準絶滅危惧(Nt), 【青森県】重要希少野生生物(B ランク), 【秋田県】情報不足(DD), 【山形県】準絶滅危惧(NT), 【福島県】準絶滅危惧(NT), 【茨城県】絶滅危惧Ⅱ類, 【千葉県】最重要保護生物(A), 【東京都(本土部)】絶滅危惧ⅠB類(EN), 【東京都(区部)】絶滅危惧ⅠB類(EN), 【新潟県】準絶滅危惧(NT), 【富山県】情報不足(DD), 【福井県】県域準絶滅危惧, 【静岡県】準絶滅危惧(NT), 【愛知県】絶滅危惧Ⅱ類(VU)(繁殖), 準絶滅危惧(NT)(越冬), 【三重県】準絶滅危惧(NT), 【滋賀県】希少種, 【京都府】準絶滅危惧種, 【兵庫県】B ランク, 【島根県】情報不足(DD), 【岡山県】準絶滅危惧, 【山口県】絶滅危惧ⅠB類(EN), 【徳島県】絶滅危惧Ⅱ類(VU), 【香川県】絶滅危惧Ⅱ類(VU), 【高知県】準絶滅危惧(NT), 【長崎県】絶滅危惧Ⅱ類(VU), 【大分県】絶滅危惧Ⅱ類(VU), 【宮崎県】準絶滅危惧(NT-r), 【鹿児島県】絶滅危惧Ⅱ類, 【沖縄県】絶滅危惧Ⅱ類(VU)

保護に係る法令指定状況（令和7年度末時点）

鳥獣保護管理法

参考文献

- Amano, T., T. Székely, K. Koyama, H. Amano and W. J. Sutherland, 2010. A framework for monitoring the status of populations: An example from wader populations in the East Asian-Australasian flyway. *Biological Conservation*, 143: 2238-2247.
- 環境省自然環境局生物多様性センター, 2020. 重要生態系監視地域モニタリング推進事業（モニタリングサイト 1000）シギ・チドリ類調査 2004-2017 年度とりまとめ報告書. 環境省, 富士吉田市.
- 守屋年史・松井淳・三木敏史, 2022. 生態図鑑－セイタカシギ. バードリサーチニュース, 2022 年 6 月: 3.
- 中村登流・中村雅彦, 1995. 原色日本野鳥生態図鑑〈水鳥編〉. 保育社, 大阪.
- 日本鳥学会, 2024. 日本鳥類目録改訂第 8 版. 日本鳥学会, 東京. 506pp.
- Pierce, R. J. and G. M. Kirwan, 2020. Black-winged Stilt (*Himantopus himantopus*), version 1. 0. In *Birds of the World* (S. M. Billerman, B. K. Keeney, P. G. Rodewald, and T. S. Schulenberg, Editors). Cornell Lab of Ornithology, Ithaca, NY, USA.
- 植田睦之・植村慎吾, 2021. 自然環境保全基礎調査 全国鳥類繁殖分布調査報告 日本の鳥の今を描こう 2016-2021 年. 176pp. 鳥類繁殖分布調査会, 東京.
- Wetlands International, 2023. “Waterbird Populations Portal” . Retrieved from wpp.wetlands.org on Mon Feb 2023.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Himantopus himantopus has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.

Himantopus himantopus is listed as DD under criteria ②.

The species that possesses attributes which could easily shift it into the threatened categories due to changes in environmental conditions (specifically, the following criteria), yet lacks sufficient data, including habitat status, to determine its category.

②Habitats are highly limited.

Habitat types:	【Terrestrial/Freshwater area_Plain, Beach】 Farmland, Wetland, Estuary, Inlet, Agricultural ditch, Small river, Reservoir/Pond, Lagoon/Lake/Dam, Brackish water, Salt marsh/Intertidal mudflat (including mangrove wetland), Lagoon/Brackish lake 【Marine area (Coastal area)_Intertidal zone, Surface water】 Sea surface, Intertidal mudflat, Sandy bottom/Gravelly bottom, Muddy bottom
Threat types:	Coastal development, Wetland development, Field preparation, Limited distribution
Law designation status for conservation	Wildlife Protection, Control, and Hunting Management Act.



執筆者: 守屋年史 (バードリサーチ)
 Author: Toshifumi Moriya

公表年月：2026 年 3 月